

第4回定例研究会

「日本の捕鯨・その利用の保護と術」

第4回定例研究会は、政策研究大学院大学教授の小松正之先生をお招きして、「日本の捕鯨・その利用の保護と術」というテーマで講演いただきました。小松正之先生のご経歴は、下記の通りです。

【講師プロフィール】

1953年岩手県生まれ。東北大学卒業。

1977年農林水産省入省。

1984年アメリカ・エール大学大学院修了。経営学修士（MBA）を取得。

水産庁漁業交渉官として捕鯨を担当。資源管理部参事、漁業資源課長、国連食糧農業機関（FAO）水産委員会議長、インド洋マグロ漁業委員会日本代表、独立行政法人水産総合研究センター理事などを歴任。

2004年に東京大学にて博士号（農学）を授与。国際捕鯨委員会（IWC）日本代表を務め、調査捕鯨のデータをもとに日本の主張を世界に対し明確に示した。

2005年「Newsweek」において「世界が尊敬する日本人100人」に選ばれる。

2007年日本テレビ「世界一受けたい授業」に講師として出演する。2008年現在、政策研究大学院大学教授。

主な著書に、『クジラは食べていい！』（2000年、宝島新書）、『クジラと日本人 食べてこそ共存できる人間と海の関係』（2001年、青春出版）、『クジラ紛争の真実』（2001年、地球社）、『国際マグロ裁判』（2002年、岩波書店）、『日本人とクジラ』（2007年、ごま書房）、『豊かな東京湾』（2007年、雄山閣）、『これから食えなくなる魚』（2007年、幻冬舎）など多数。

講師

小松 正之 氏（政策研究大学院大学教授）

テーマ

日本の捕鯨・その利用の保護と術

講演日

2008年10月18日（土） 14:00～17:00 受付開始 13:30～

場所

武庫川女子大学 甲子園会館 K205

申し込み

不要